

前奏 黙想	祈 禱
讃美歌 17 空はほがらに	讃美歌 405 かみともにいまして
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 詩編 147:4~7	黙 禱
ルカによる福音書 1:39~45	主の祈り 564
讃美歌 II-124 マリヤはあゆみぬ	頌 栄 541 父、み子、みたまの
説 教 『一人旅をするマリア』	祝 禱 後 奏

天使から受胎告知を受けたマリア(ルカ1:31)。「恐れるな(1:30)」と言われ「わたしは主のはしたためです。お言葉どおり、この身になりますように(1:38)」と答えたものの、まだ幼いマリアは恐れおののいた。親類のエリサベトの懐妊も聞いたため(1:36)、マリアは不安を払拭したくてただちに行動した。

「そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した(1:39~40)」。マリアの家はガリラヤのナザレ(1:26)。ザカリアの家がユダ地方の山里のどの村かは不明だが、急いでも片道4~5日はかかる旅程。それに年端もいかない少女がたった一人、不安を抱え陽に焼かれながら街道を往く姿は胸が痛む。マリア、運命に負けるなよ。

「マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。[あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています](1:41~42)」。重大なことだが、あっさり語られているこの場面、なるべく具体的に視覚化してみよう。

息せき切って戸口に立ったマリア。サンダル足には泥、衣をはたくと土埃、頬は赤く、目には不安の色。迎えたエリサベトはあっと驚き、まず顔や足を洗わせ、飲み物を与えた。少女マリアと老女エリサベトが、ほの暗い部屋で向かい合うコントラスト、実に印象的な光景だ。ひと息つきマリアが来訪の挨拶をすると、エリサベトの「胎内の子がおどり」、両者は聖霊によって響き合った(1:41)。

エリサベトは長年「不妊の女」として蔑まれ、老年になっての妊娠は人々の好奇にさらされていた。マリアの方は相手の分からぬ妊娠で、婚約者のヨセフ(1:27)は傷つき、公にされたら処刑ものの罪を負う身であった。そんな世間の事情を知ってか知らずにか、天使は人間の気持ちを忖度せずストレートに主の告知をする。エリサベトの夫ザカリアには「あなたの願いは聞き入れられた(1:13)」、マリアには「あめでとう、恵まれた方(1:28)」といった具合に。私たちはこの緊張感も丁寧に味わいたい。

マリアはなぜ、危ない旅をしてまでエリサベトを訪ねたのか。会って自分の身に起こっている不可解を納得したかった。エリサベトは感嘆して言う。「わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう(1:43)」。老女が少女に仕えるようにして発した最上級の賛美。マリアは、信頼できる老女エリサベトの言葉によって、天使の告知の確証を得ただろうか。過分すぎて迷惑な幻ではなく、これから起こる救いの計画を(1:32~33)、自ら負っていく決意を固めたのだろうか。

「主は貧しい人々を励まし、逆らう者を地に倒される(詩編 147:6)。「貧しい人々」と「逆らう者」という二者に分けるよりも、私自身の貧しさと、私自身の反逆と捉えられよう。主は無数の「星に数を定め、それぞれに呼び名をお与えになる(147:4)」ように、私たち一人ひとりを見ておられる。そしてその人の「貧しさ」に驚くべき恵みと使命をお与えになる。それを自覚するのが私たちの礼拝(147:7)。

マリアほどではなくても、皆さん自身の「貧しさ」に主の恵みを感じるだろうか。マリアほどではなくても、己が使命を確かめる「旅」をしているか。礼拝を献げ(147:7)、あなたならではの恵みと使命を掴んでほしい。マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめる(ルカ1:47)」。主をあがめ(大きく)、自分を小さいまま然りとする。自分を大きくしようとするところに、人間の不信仰、不自由が起こる。

主をあがめ(大きくし) 自分を小さくする 無理に縮こまることではない 小さいそのままでも充分
主をあがめ 自分を解き放つ すべてを持たなくてもいい 隣人と互いに分かち合えばそれで充分

次主日 12/1 からアドベント(待降節)。礼拝後に役員会、カレーの日です。11/25(月)10:00~11:30 甲府聖研(YMCA)。11/27(水)1:00~3:00 教会カフェ(手仕事の会)。牧師の動き:11/28 刑務所体育祭。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。